

エコチル調査の 今後のロードマップ

国立環境研究所
エコチル調査コアセンター
新田 裕史

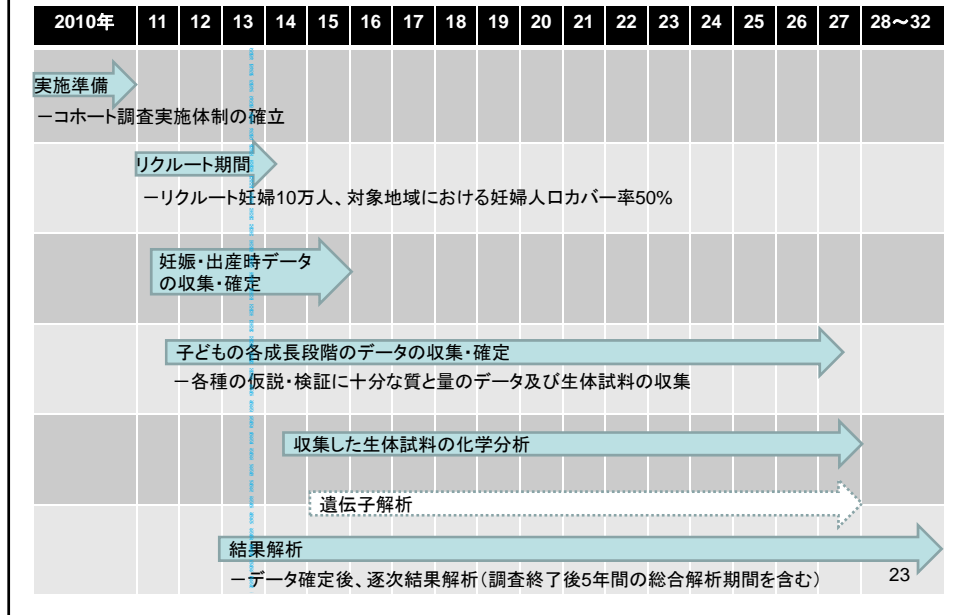
21

概要

- エコチル調査の現在位置
- 今後のフォローアップ調査
- 生体試料の蓄積・分析
- データ解析と成果の公表
- 課題

22

ロードマップ



エコチル調査の現在位置

- リクルート開始から約2年半が経過して、10万人のリクルート目標数の8割を達成した状況である。同意率(母親)は約78%となっている。
- 子どもは約6万人が出生し、最年長は2歳半に達している。
- 収集された質問票の総数は約50万、出産時まで収集したデータ変数の数は約2千、生体試料の検体数は100万を超えている。
- 6カ月以降の郵送による質問票調査の回収率は督促等を行った後で9割前後である。

24

今後のフォローアップ

- 生後6カ月毎の質問票調査においては、各時期の質問票のページ数の上限の目安を設定した上で、適切な時期に適切な質問を含む質問票を作成して、使用する。
- 質問票返送の勧奨、督促についてはマニュアルにしたがって、各地域の事情を勘案してユニットセンターにおいて実施する。
- 必要に応じて、住民票照会等によって転居先を把握して、質問票送付を行う。

25

疾患罹患の把握

- 出産後1カ月健診までの疾患罹患については、診察記録票(カルテ)情報に基づいて把握する。
- 出産後1カ月以降については、基本的に医師の診断に基づく参加者の質問票の病歴欄への記入により把握する。
- 参加者の病歴欄への記入のみでは診断名確定が困難であり、かつ子どもの疾患として重要なものは、受診医療機関を対象として、二次調査票を用いた疾患情報登録調査を実施する。

26

子どもの成長・発達の把握

- 国際的に使用されている自己記入式の評価スケールを用いて把握する。
- 身長・体重等の体格の記録については、母子健康手帳からの転記や保護者による計測結果を質問票により把握する。
- 詳細調査対象者については、面談や実測等によって把握する(予定)。

27

生体試料の分析

- 血液試料については、採取後に生化学検査(血液性状、脂質、アレルギー関係等)を実施済み。
- 多項目、多検体分析のための精度管理手法の検討を実施中。
- 多くの環境化学物質の分析は、リクルート期間終了後から開始する予定。
- 仮説検証に必要な分析対象検体の選定、分析項目の優先順位付けを行うなど、分析計画の策定作業を実施中。

28

データ解析と成果の発表

- 初年度に出産までのデータが収集された約1万人について、データクリーニングを行い、一部固定データの作成を行った。
- 今後、できるだけ早期に解析を行い、周産期医療や母子保健・福祉の向上に寄与する成果発表を進めて行く。
- 環境要因との関連性の解析に必要な化学物質の分析については計画通りに進める。

29

課題

- 今後、参加者やその家庭を取り巻く状況が変化していくことが予想される。
- ユニットセンターと地域との連携を重視するとともに、調査実施側と参加者とのコミュニケーションを確保しつつ、長期にわたる調査へ参加を維持して、質問票調査などへ協力を継続していただくことが必要である。
- 調査実施側についても、データ・生体試料の管理体制の維持など、安定的に調査継続できる組織を維持していくことが必要である。

30